

# 家庭クラブ通信

## ☆紫薫枕の改良

家庭クラブでは、昭和38年から紫薫枕の製作を続けて今年で61年になります。今の枕の形は平成30年に完成したものです。特徴に真ん中にくぼみをつけ、首のカーブを自然に保っていること、中身は地域の北舘製麺株式会社より提供されている通気性の良いそば殻を使用しています。また、紫根染で綿の布を染めて枕の横にタグを縫い込んでいます。

昭和63年からの長寿のお祝いとしての紫薫枕の寄贈がコロナ禍で敬老会が中止になり、令和2年を最後に継続が難しくなりました。しかし、なんとか伝統のある紫薫枕を残そうと考え、文化祭で限定50個の販売をしてきました。

今年度は紫薫枕の寝心地の良さを追求していこうと考え、試作品をつくり3月19日～3月25日に生徒のみなさん、先生方にモニターして頂きました。

### 家庭科の学びを活かした地域との活動 紫薫枕の寝心地のよさを追求



モニター調査

7種類の枕を試供

	試作1号	試作2号	試作3号	試作4号
そば殻の量・外見	(□0.86□)	(□0.9□)	(□0.93□)	(□.80□)
	試作5号	試作6号	試作7号	
そば殻の量・外見	(□0.99□)	(□0.56□)	(□1.19□)	

## ☆地域に伝わる物語の読み聞かせ

だんぶりちょうじゃののこした たからもの



ペープサートを作成

秋田県との境、田山地区に伝わる物語の読み聞かせをします。加藤美南子の「だんぶりちょうじゃののこしたたからもの」という絵本をもとにテキストを作ります。「だんぶり」とは、北東北の方言で、トンボのことを言います。北東北には、1400年前から「だんぶりちょうじゃでんせつ」という言い伝えがあります。絵本はその伝説をもとにしています。内容は、「働き者だけれど、貧しかった若者がトンボのおかげで東北で一番の長者になりました。長者はいくつもの蔵にいっぱい宝物を残して亡くなりました。でも本当の宝物は人々の平和を愛する優しい心だった」というお話です。

秋田県との境、田山地区に伝わる物語の読み聞かせをします。加藤美南子の「だんぶりちょうじゃののこしたたからもの」という絵本をもとにテキストを作ります。「だんぶり」とは、北東北の方言で、トンボのことを言います。北東北には、1400年前から「だんぶりちょう